

Information_1

明けましておめでとうございます。今年もオーナー様、動物さんたちの心に寄り添えるよう精一杯努めて参りますので、どうぞよろしく願いいたします。

今年は申年ということで、今回のインフォメーションは、いつもとは趣向を変えて申年にちなんだサルトリビア（雑学）を集めました。

申の語源

語源には様々な説がありますが、よく知られているものの中からひとつご紹介します。申という字は「伸ばす」という意味からきているそうです。暦が存在していた頃は十二支を月にあてはめて詠み、申は7月をさしていました。この月は草木が十分に伸びきった時期で、実が熟成して香りと味が備わり、固い殻に覆われていくことから「申（シン）」と読みました。この十二支をあてはめた月の読み方は、当時ほとんど学がなかった庶民に干支を浸透させる狙いもあったようです。

人々から見たサル

サルは遙か昔から山の賢者、あるいは山神の遣いであると信じられていました。人とよく似た出で立ちをしていて、知恵があり賢いというイメージがあったことから信仰の対象として扱われることもあったようです。

日本で有名な猿

世界の猿の中で、唯一温泉に浸かるのがニホンザルだと言われています。猿の中でニホンザルは地球上で最も北の寒い地域に暮らしていることから、英名では「スノーモンキー」と呼ばれています。他の猿たちは、熱帯から温帯にかけて生息しているため、温泉に浸かる習慣はありません。日本の冬の寒さは、本来猿にとっては厳しいもののようです。

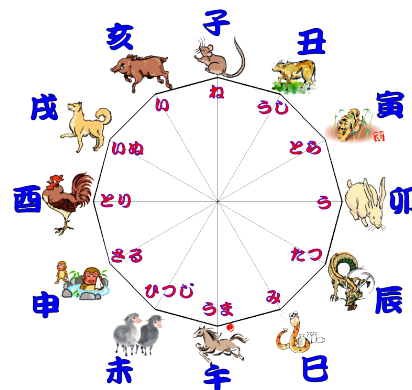
申の出てくるおとぎ話・・・「桃太郎」

誰もが一度は見た、聞いたことのあるおとぎ話かと思えます。

桃太郎といえばお供に猿、犬、雉を連れて鬼退治をする物語です。では、なぜ桃太郎は彼らを選んだのか？これにもさまざまな説があり、未だに真相は明かされていないようです。今回は有名と言われている説を2つ取り上げました。

説①風水説

鬼は風水で示すと丑と寅の間の方角である「鬼門」と呼ばれる場所からやってくるとされていました。そこで、その方角に対抗する表鬼門に位置する動物が「申」「犬」「酉」のため、この3匹をお供とした説。



ちなみに、絵本でよく見る「鬼には丑のような角が生え、寅柄のパンツをはいている」イメージは、この説が由来とされています。

説②仏教説

これは仏典の一冊【大方等大宗教】が元になったと言われています。その昔人間界の周りには4つの島があり、そこには干支となる動物が住んでいました。鬼ヶ島へ向かう道中立ち寄った理由は明らかにされていませんが、西に住むものをお供とした説。

- 東の島⇒虎、兎、竜
- 西の島⇒猿、鳥、犬
- 南の島⇒蛇、馬、羊
- 北の島⇒猪、鼠、牛